

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第164号 (2024.4.7-2024.4.14)

- ◆ 参加者：しまねこくん、奈津実、帰ってきた笛地静恵、小沢史  
さん、朝森たけ、何となく短歌、みさきゆう、池田 突波、西  
脇祥貴、ぽほら、クイスケ、靈夢、紗千子、古城エツ、輪井ゆ  
う、おかもとかも、西沢葉火、水の眠り、夜鳥、岡村知昭、菊  
池洋勝、ダリア、汐田大輝、陰 一郎、星野響、りゅうせん、  
雷(らい)、石原とつき、かれん、涼閑、海馬、石川聡、さー、  
紗千子、うつわ、亀野歩、石畑由紀子、まつりぺきん、片羽 雲雀  
守宮、くろさわたお、西畑由紀子、まつりぺきん、片羽 雲雀  
えみ、東(こころ)、marport、花野玖、Nachttrauerchen、れいすい  
き、しろとも、ちゃんみーい、佐竹紫田、いずみ、smpo(ス  
ー)、てけーブレーション、宮坂麥哲、月波与生(五八名)

◆川柳・俳句

オメガですかキャップの赤ですか いずみ  
才能の隣の部屋のエレキング 西脇祥貴  
降りつづく雨とじぶんを勘違い 海馬  
サロメよりトライアスロンが憎い クイスケ  
春の嵐山光三郎の道 帰ってきた笛地静恵  
野良チエロが帰りの道をついてくる 石畑由紀子  
きみもわたしも置いてきただあれも居ない 石畑由紀子  
桜舞うLIVEのなかで待ち合わせ 東(こころ)  
涸れてゆく海に挿したままの葉 陰一郎  
穴を出たぼくのカウンセラーの蛇 陰一郎  
メロメロに萌え萌えキュンな永田町 ぽほら  
年の数食べた残りの雛籠 菊池洋勝  
向日葵が喰わされている菜葉飯 汐田大輝

おふとんを叩けば蝶がいた気配 かれん  
滝行へソプラノサクスの四月 りゅうせん  
投げ出した太股に湧く蟹気楼 しまねこくん  
花びらを舐めて葉書に貼る桜 しまねこくん  
横領のぼく大量のぼくに会う 岡村知昭  
性別は今川焼と書いておく 小沢史  
進化論はなかなか鈍器たり得ない不惑 石原とつき  
解らない公式ながめ過ごす夜 まつりぺきん  
さいのうをやさしくけすよさくらもち 石川聡

\*

夕焼けは完治したのに真みどり 奈津実  
潮干狩嫁も掘り出し帰りたや *stusru*  
いつ終はる蜂蜜の糸春の夜 池田突波  
じゃんけんで決めようこれからのこと ぼぼら  
花冷えが 寂しさをより 深める夜 靈夢  
春の愚者 海が見たいと泣く海月 紗千子  
学生の頬張る串刺しの愛 輪井ゆう  
蛇口からお湯ではなくて春が出る おかもとかも  
さんぽが咲いているねえ 西沢葉火  
フリージア俯き過ごす日もありぬ 夜鳥  
決められない棒の蜜蓮華草 ダリア 220  
飽きるまで回転扉春うらら 星野響  
正解はラッパではない春の闇 雷  
ふたり居るときのさみしさ際だって 涼閑  
倒れたらどうかそのまま放つといて 亀野歩  
墓場にてフェレットとつい見つめ合う *soko* 守宮  
宵越しの感情を持ち去った人 くろさわたお  
素焼きしたアスパラガスをなぞる真昼 片羽雲雀  
簡単に眠れなくなる甘えたい えみ  
窓越しの雨おと肅に花筏 *mugwort*  
亀鳴くやビル群望む箱根山 花野玖

悪人の方が『論語』を読んでゐる Nichttrauerchen

春驟雨明日は真面目に働きます しるとも

陽光に溺るるやうにチューリップ 佐竹紫円

借金が照らす闇夜や月明かり 宮坂変哲

\*

歯型かもしれぬ掲示板の窪み 月波与生

◆ 短歌

職業に「無し」と書くたび背中から刺されるようで「フリ  
ー」と書いた 水の眠り

パートナー欲しいですって繰り返す私に助演女優賞くれ  
れいすいき

幽霊とハーゲンダッツ食べる夜意外に朝も好きなんだって  
ヴたこだよ

\*

メメント・モリ実践してると言つとけば知的なヒトと言え  
なくもない 虚見津山都

透明に閉じていけばいいうたたねの向こうに声が聞こえる  
ように みさきゆう

ベランダで跳ねてるバッタ棲む世界間違えてるね吾と同じ  
だ 古城エツ

手をふって歩くふたたび『せいかつ』の教科書のよな四月  
道端 さー

表層は黒板消しで消せるけど呪いの文字の跡残りけり う  
つわ

◆詩・短文

月命日。もう心ヶ月たった。  
早いなく。今何してんのかな？

パパの事だから巨乳探しに歩いてるべな(ちゃんみーい)

く夢でラーメン行っただぜ元気そうだった(てけいプレ  
ン卿)

◆作品評から

花びらを舐めて葉書に貼る桜 しまねこくん

く強烈。なぜ性愛の句なのか。あえて蛇足を。葉書が手紙の「掛詞」。手紙は古来、玉梓(たまずき)。結び文。多くは艶書。ラブレター。花卉は、女性のおそこ。舐めた舌で、切手を舐め、桜を貼る。桜は散る。新しい相手ができた。別れのハガキ。たぶん女性同性愛。(帰ってきた笛地静恵)

4

歯型かもしれぬ掲示板の窪み 月波与生

くわはは。ケータイのない時代。駅前にある伝言掲示板は、恋人たちの待ち合わせの、重要な情報源だった。相手が来ない。焦れている。黒板に怒りをぶつける。噛みついてる。そういえば、ずいぶん傷がついていて、へこみがありました。(帰ってきた笛地静恵)

恋愛がわからないと打ち込んで出てきた答えに救われませんでした  
れいすいき

く生成AIが苦悩する人間を救う日がくるのは遠くない。  
逆に自殺を誘導してしまうこともあるだろう。ロボット三原則のようなものが必要かも。(月波与生)

果てしないエンバミングわらべうた かきもちもちり

春の池の澄んだ遺体もすこし浮く 石川聡

〜四月の怪談のような句がふたつ。そういえば岡田史子という漫画家に「ガラス玉」という短編集があつて……。

(月波与生)

ウミウシの未来を語る主要五紙 汐田大輝

〜初めてウミウシを踏んづけた時は驚いた。足がどうなつたのかと思つた。そのウミウシの未来を主要五紙が語る。赤旗紙は何と言うだろうか。(月波与生)

真昼間のあたたかい風となり花の開花を早めてみよう  
水の眠り

〜弘前公園の桜の開花は4/19→4/22→4/16と変わった。来週には咲くらしい。あたたかい風が吹く明日はタイヤ交換をしよう。(月波与生)

わがままを言わせてもらう君よりも一秒後に僕は死にたい  
みさきゆう

〜パートナーより先に逝きたいという男性が多い中で一秒でも後に死にたいという僕は貴重かもしれない。でも一秒後ならほぼ同時、メンドクサイかも。(月波与生)

性別に強いて足すなら蛍鳥賊 しまねこくん

〜男女以外に追加する区分が必要か?という問いに「蛍鳥賊」という飛ばしは川柳的でありほどよい軽さがある。

(月波与生)

さんぽぼが咲いているねえ 西沢葉火

〜お散歩する人の足跡にぽんぽんと咲いていきそうですね!足元に春が付いてくるようで楽しいです。(森砂季)

ベランダで跳ねてるバツタ棲む世界間違えてるね吾と同じ  
だ 古城エツ

〜おはようございます。バツタまだ見てないわ。そろそろ虫も全開ですね。昨夜蚊のおかげで寝れませんでした。ベープ買って無かったのね。(STOP80 (スー))